

トピックス…③

暑熱対策や寒冷対策に気象情報 を利用しよう

酪農用の地域別気象情報（カウダス）を公開しました

酪農における暑熱の影響については、「日中の気温が24℃以上になると乳量が減少し、夜間の気温が22℃以上になると更に著しく乳量を下げると言われています。そのため暑熱対策として、送風扇等により体感気温をさげる必要があります。一方、子牛管理においては、気温が13℃以下となると死亡事故が起こり得るので、ジャケットなどの防寒対策が必要とされています。このように酪農においては、気温の管理（暑熱対策や寒冷対策）が生産性に直接影響しています。

しかし、これまでの気象情報は人間中心の情報であり、乳牛がほとんど飼われていない都市部などを中心としたもので、そのまま酪農に適用することは出来ませんでした。このため、乳用牛群検定全国協議会（会長：鎌田壽彦、事務局：（一社）家畜改良事業団）では、「先進技術立脚型酪農経営支援事業」（日本中央競馬会からの助成）により、各都道府県内でも乳牛が多く飼養されている酪農地帯を中心とした気象情報（カウダス）を開発し、本年7月10日に以下の通り公開しました。ご自分の地域の気候特性を知り、暑熱対策や寒冷対策に利用して頂きたいと思えます。

カウダス（CowDAS）とは、乳牛を示す「カウ」と地域気象観測システムの「アメダス」を合わせた合成語で、牛群検定データと気象観測データを関連付けた新しい気象情報を意味します。気象庁から公表される全国約840カ所のアメダス情報を利用しています。

我が国が世界に誇る最先端テクノロジーである気象観測システム「アメダス」を牛群検定に取り入れたことは、極めて画期的なことです。とりわけ西日本や沖縄で課題となる暑熱による乳量減少、北日本で課題となる寒冷による子牛の損耗、局所的な大雨による自給飼料の被害など、気象が原因となる酪農の被害は枚挙に暇がありません。

今後、戸別の検定農家でのリアルタイムなカウダスも展開する予定なので、牛群検定に加入のうえ、利用して頂きたいと思えます。

- 閲覧方法：誰でも自由に閲覧可能（無料）
- 公開地域：各都道府県、ただし北海道については14地域
- 公開情報：平成28年12カ月の月別乳量の推移および気象変化（雨温図）

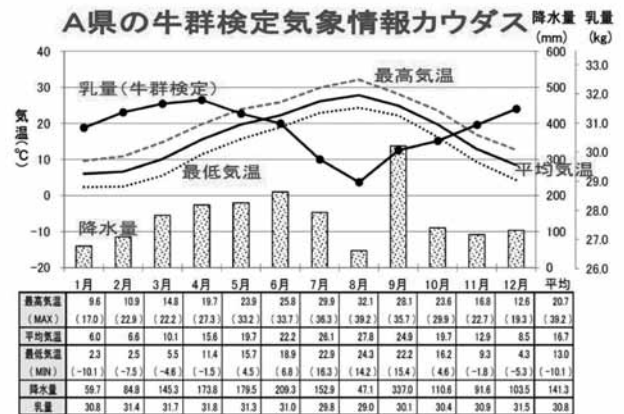
URアドレス：
乳用牛群検定全国協議会 <http://liaj.or.jp/kyogikai/> 「牛群検定全国」で「検索」
（一社）家畜改良事業団 <http://liaj.lin.gr.jp/LIAJ/> で「検索」

〈カウダスの活用事例〉

図のA県においては、5～9月は最高気温が24℃以上となり送風扇等の暑熱対策が必要で、とりわけ7～9月は最低気温が22℃を超えるため、夜間の暑熱対策も必要となります。また、4月と10月も24℃を超えることがあるので、その際は暑熱対策が必要となります。

一方、子牛管理においては、平均気温が13℃以上となる4～10月期の防寒対策は不要と感じますが、7～9月を除いて特異的に13℃を下回ることがあり、注意を怠ることはできません。

ただし、牛舎構造等による違いがあるので、舎内の気温との関係を日常的に確認しておく必要があります。



〈カウダスにおける平均気温〉

牛群検定では毎月検定成績表を酪農家に郵送しています。このことから牛群検定における住所管理は極めて厳格なものです。ここから図のようにA県内の酪農家とアメダスを距離的に結びつけることができます。牛群検定だからこそ可能なデータ処理であるため、一連のシステムおよび情報に「カウダス」という名称を付けることとしました。

